

平成27年度 岐阜工業高等専門学校シラバス						
教科目名	参加のデザイン	担当教員	今田太一郎			
学年学科	5年 建築学科	後期	選択	1単位		
学習・教育目標	(D-3・創生)100%		JABEE 基準 1 (1) : (d)			
授業の目標と期待される効果： 建築計画・地域住環境において、重要度を増している協働型（住民参加・利用者参加）の計画手法について、実践的に理解を深める。具体的にはユーザー参加型・協働型建築計画についての講義と演習を通じ、協働の意味および計画のプロセス・技法を習得することとし、以下の項目を目標とする。 ① 協働型建築計画の意味およびプロセスの理解 ② 協働型建築計画における個別性を理解し、計画に反映できる。 ③ 協働型建築計画における全体性を理解し、各種の関係を調整できる。		成績評価の方法： 課題提出100点（個別計画30点＋全体計画70点）とし、総得点率（100%）によって成績評価を行う。なお、個別計画は個人評価、全体計画は班別評価とする。 達成度評価の基準： 評価の重みは①を3割、②を7割とする。総合得点率が60%を超えていること。 ①ユーザーの要求に対応した個別の計画をまとめることができる。 ②個性を生かしながら、意見をまとめ、全体計画を作成できる。				
授業の進め方とアドバイス：住民参加・利用者参加の手法をより実践的に理解するために演習を中心に実施する。ただし、設計の授業ではないので、建築の精度よりも、むしろ計画的視点を重視する。						
教科書および参考書：なし						
授業の概要と予定：後期						ALのレベル
第1回：地域住民・ユーザー協働型建築計画の意味、方法、計画上留意すべき点 班分け、ユーザー・フェイスシートの作成						B
第2回：講義 ワークショップの技法（ブレインストーミング、KJ法について）						C
第3回：講義 協働の方法、ワークショップの技法。事例紹介、						
第4回：演習 利用者要求の把握・計画目標の作成						B
第5回～7回：演習 個別計画～ユーザーとの価値の共有						A
第8回～9回：演習 全体計画						
第10回～12回：演習 個別性を考慮した全体計画の調整						A
第13回～14回：演習 計画のまとめ						
第15回：講評会						A

評価（ルーブリック）

達成度 評価項目	理想的な到達 レベルの目安 (優)	標準的な到達 レベルの目安 (良)	未到達 レベルの目安 (不可)
①	ユーザーの要求に対応した個別の計画をまとめることが（8割以上）できる。	ユーザーの要求に対応した個別の計画をまとめることがほぼ正確（6割以上）にできる。	ユーザーの要求に対応した個別の計画をまとめることができない。
②	個性を生かしながら、意見をまとめ、全体計画を作成することが（8割以上）できる	個性を生かしながら、意見をまとめ、全体計画の作成がほぼ正確（6割以上）にできる	個性を生かしながら、意見をまとめ、全体計画を作成できない。